

# 『景観資源としてのタテカンを考える』 学生ワークショップ

京都大学吉田キャンパス周辺に長年設置されてきた立看板（タテカン）は、京大の文化として親しまれていました。

しかし市の景観条例違反である、また歩行者に危害が及ぶ可能性があるという指摘を受け、2018年5月1日、大学当局が強制撤去を行いました。この撤去騒動の後、タテカンに関する様々な議論や取り組みが喚起されましたが、未だ収束していません。

この企画では、「タテカン」がどのように存続できるのか、いかなる価値を認められるのかをワークショップ形式で考えます。学生/大学/地域/行政が対立するのではなく互いに調和しながら、タテカンが京都大学の文化として、あるいは町の景観として広く認められるために、どんなデザイン、どんな制度を考えることができるでしょうか？

京都大学デザイン学大学院連携プログラムご協力のもと、上記の問題を考えるワークショップを7月30日(月)に吉田のファブラボで開催します。内容は、グループディスカッションからプレゼンテーションまでを6名のアドバイザーの先生を交えて行い、13:00-18:00を予定しています。興味のある方は、三浦健(三浦研 M1, miura.ken.55c@st.kyoto-u.ac.jp) までご連絡ください。ご参加いただく人数によって2~3グループでの作業を予定しています。

## ■スケジュール

13:00	資料配布・問題共有 (45分)
13:45	グループディスカッション (90分)
15:15	制作・プレゼン準備 (90分)
16:45	プレゼンテーション (45分)
17:30	総評 (30分)

## ■アドバイザー (以下50音順)

- 池田 剛介 先生 (アーティスト)
- 大庭 哲治 先生 (京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻・助教)
- 椿 昇 先生 (京都造形芸術大学教授)
- 富家 大器 先生 (四天王寺大学・短期大学部 生活ナビゲーション学科ライフデザイン専攻・准教授)
- 藤井 聡 先生 (京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻・教授)
- 藤本 英子 先生 (京都市立芸術大学美術学部美術研究科教授)

## ■制作物

- コンセプト文
- 立面図/スケッチ2枚以上 (タテカンのデザインだけでなく周囲を含む景観が分かるもの)

# 2018年7月30日(月)13:00~18:00

(終了時刻は前後する可能性があります)



デザインファブリケーション拠点  
Design Fabrication Center

場所：京都大学吉田キャンパス  
デザインファブリケーション拠点

問い合わせ：

- 三浦 健 traverse19 編集長  
miura.ken.55c@st.kyoto-u.ac.jp
- 早川 健太郎 traverse19 企画編集員  
hayakawa.kentaro.77c@st.kyoto-u.ac.jp

(京都大学大学院工学研究科建築学専攻)

京都大学建築学専攻では、機関紙『traverse—新建築学研究』を2000年より年一回、学生有志で企画、編集、出版しています。この機関紙は建築の分野に限らず様々な領域から建築や都市を考察していくことを主旨としています。

毎年、各分野の著名人へのインタビューを始め様々な企画を設けておりますが、今年度はワークショップを企画しました。本企画に当たり、市の委員として活動されている方や芸術家の方など、6名の多様な先生にインタビューを行い、プログラムや資料を作成しました。当日もこの方々に講評をしていただきます。

工学系、芸術系に限らず、経済や法律など幅広い分野の学生の参加を期待します。ぜひご参加ください。

ワークショップを通して得られた成果物をもとに、行政や地域住民も巻き込みながら、さらなる議論が広がることを望んでいます。この企画が traverse にとどまらず、「タテカン」文化の新たな枠組み作りの端緒になれば幸いです。